

# S部門

(肢体不自由教育部門)

文字・言語、数量概念獲得前の教材  
教員作成教材ガイド



平成28年度

東京都立鹿本学園

## 目次

- 「SEE A SONG！」
- 「花びらの選択」
- 「あめふり水族館」
- 「きらきらホース」
- 「傘の水族館」
- 「あかんべノンタン」
- 「げつようびはなに食べる」
- 「どんないろがすき」
- 「線書き」
- 「999ひきのきょうだい」
- 「アンパンマン絵合わせ」
- 「いろいろな色を知ろう」
- 「きんぎょすくいをしよう」
- 「混色どんないろがすき」
- 「同じ場所におけるかな」

# SEE A SONG!

～歌を見て楽しもう～

## 対象児童・生徒

- 視力の弱い生徒や視野の狭い生徒に
- 聞き取りの難しい生徒に
- 歌のイメージが難しい生徒に
- 姿勢を取りづらい生徒に
- 広いスペースをとれない場所での指導時に 個別に使用
- 訪問の授業で訪問先に持って行って活用

S 高2 訪問学級

自立活動を主とする



## ねらい

- 1、歌を可視化して、歌の世界を見て楽しめるように
- 2、手軽に持ち運び、ICT機器を使わなくても、狭い場所でも、どんな姿勢でも楽しめるように

- 1、市販のホワイトボードを活用。
- 2、背景や登場人物などの裏にマグネットシートを付ける。
- 3、歌に合わせて場面や登場人物を変えていく。(ちょっと忙しい)
- 4、歌に合わせてサンタさんがパツと出てくると、生徒の目は釘づけ！マグネットはポストに入ってくる広告を使うので、材料費はなんと108円。(磁力がちょっと弱い)

## 教材の使い方 (指導方法)



リンリンリン リンリンリン  
リンリンリン

あわてんぼうのサンタクロース  
えんとつのぞいておっこちた



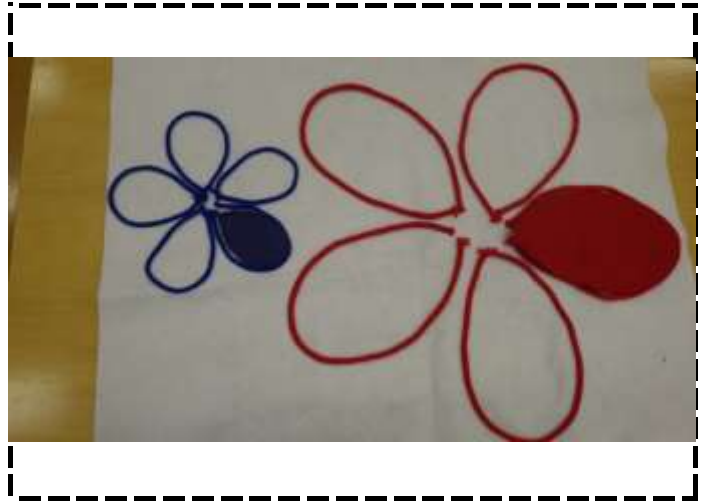
# 花びらの選択 ～色と大小～

## 対象児童・生徒

- ・活動への気づきから色の弁別、大小を課題にしている生徒など、認識に幅のある学習グループです。
- ・視覚、聴覚に障害がある生徒が1名ずついます。

S 高2 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・自分の好きな色や触感を選択できる。
- ・赤と青の弁別、大小の区別ができる。

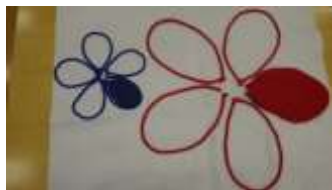
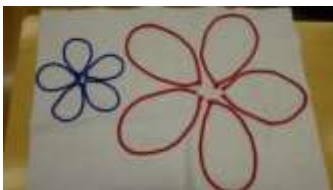
- ・赤と青の花びらの触感を変えることで（赤はフェルト、青はナイロン）、視覚的に難しい生徒でもわかりやすいようにした。
- ・花びらの大きさを変えて、大小の区別ができるようにした。



## 教材の使い方 (指導方法)

国語・数学の授業の中で、一人ずつ取り組んだ。

- ①赤と青の花びらを1枚ずつ提示して、それぞれの色、大きさ、触感を確かめる。
- ②生徒によって質問を変える。「好きな方を選んでください。」、「青を選んでください。」、「赤い花びらを提示しながら「これと同じ色を選んでください。」、「小さい方を選んでください」など。
- ③選択した花びらを同じ色の枠に貼る。
- ④全員で、できたことをほめる。



# あめふい水族館

～ ベッドサイドの訪問生と一緒に ～

## 対象児童・生徒

・絵本読みやパネルシアターで絵や色の変化を楽しむことができるベッドサイドの訪問生を対象としています。

S 高3 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

・季節や天気の雰囲気、水族館の雰囲気を、視覚的・聴覚的にとらえることができるようにする。  
・パネルシアターの中の絵は色や数をそろえて、色の学習や数の学習にも応用できるようにする。

## その他

・絵は、生徒がよく注目できるように、はっきりした色を使った。  
・色や数の学習に応用できるよう、数や色をそろえて作成した。  
・雨を表すビーズは、雨の様子を表すだけでなく、曲の間奏の時に揺らしたりパネルシアターの板にぶついたりして雨音をイメージできるようにした。  
・訪問生への教材として持ち運びやベッドサイドでの提示を考慮した。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・パネル全面が生徒から良く見える位置に教材を持って立つ。
- ・音源をスタート、歌詞に合わせてパネルシアターを貼りながら歌いかける。
- ・歌詞に合わせて絵を貼る際には、傘と魚は同じ色のところを貼り替えるようにする。
- ・途中で雨がたくさん降ってくるようにビーズを下げていき、曲の間奏部分で揺らす。
- ・歌が終了した後、メタロフォンでサビの部分を弾いたりビーズを落としたりして、余韻で雨の雰囲気や水の中の雰囲気を味わうことができるようにする。
- ・ビーズは糸が絡まらないよう、テープでとめる等のセッティングを十分にしておく。

【複数訪問時・ピアノを使うことができる場合】

- ・生演奏の時には、生徒の視線の移動の様子や注目度に合わせて、ゆっくりとたっぷりと歌いかけや演奏を心がける（録音音源もゆっくりめにたっぷりと録音する）。
- ・可能であれば、セロファンとLEDライトを使って少し光を当てて幻想的な雰囲気を出す。

# きらきらホース

～見るちから・物への興味関心を育てる～

## 対象児童・生徒

見る力、道具やおもちゃへの興味関心の気持ちや、ものを操作する力を育てたい生徒です。

S 高3 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- 掴む、握る、引っ張る等の手指の力をつける。
- 目の前の動きに意識を向けられるようになる。

透明の塩ビ管にきらきら光る鈴等音のするものを入れて、塩ビ管の切れ端を丸めてボンドでふたをしました。

手の大きさや握力に応じて塩ビ管の太さを変えたり、中に入れるものを光るものや音のするものといっしょに入れる、など変えてみるとよいです。

## 教材の使い方 (指導方法)

- 車いすの天板の上に置いて意識を向けさせる。
- 手で触り感触を確かめる。
- 握ったり、教員と引っ張り合ったりして手指の運動をする。
- 握った手を上下させ音（の移動）や光の変化（や移動）に意識が向くようにする。



# 傘の水族館 ～見る力を育てる～

## 対象児童・生徒

自立活動を主とする教育課程  
重度重複学級や訪問学級の生徒  
見る力を育てたい、外界にもつ  
と気持ちを向けてほしい生徒

(車いすや座位保持いすでの姿  
勢だけでなく、ストレッチャー  
やベッドでの見上げる姿勢にも  
対応できる教材)



## ねらい

- ・見る力を育てる
- ・教材の動きに気づく
- ・感じたことを表現する

### <材料>

ビニールがさ(50cmの小さいもの)  
半透明の折り紙 ホログラムテープ  
ビニールテープ ビーズ 鈴 テグス  
洗濯バサミ(透明) 両面テープ

### <作り方>

柄の曲がっている先端部分は切り取りビ  
ニールテープを貼る。(リサイクル用のは  
さみで、回しながら刃を当てて溝を付けて  
から折ると簡単でした。)折り紙を魚の形  
に切り両面テープで貼る。ホログラムテ  
ープを三角形に切り魚の鱗や魚の形を構成し  
て傘に貼る。洗濯バサミに鈴とビーズを付  
ける。

## 教材の使い方 (指導方法)

- この教材を使う時のイメージ うた『雨ふり水族館』絵本『にじいろのさかな』
- 作る過程も大切に 銀色に光るテープは生徒と一緒に貼りつけていきました。「にじいろのさかなのきらきらうろこを、傘の魚にも分けてあげよう!」の言葉かけをしました。
- 傘をひらくとき・傘を閉じるとき  
期待感を高めるように・活動の余韻が感じられるように、言葉かけやカウントダウンをします。
- まわし方、動かし方  
ゆっくり回します。生徒の目の動きを見ながら傘を動かします。
- 雨のしずくに見立てたビーズのオーナメント  
鈴の音を響かせるように傘を振ったり、オーナメントを手に持ち  
傘の上から落とすように打ちつけて「雨の音がする!」  
「雨が降ってきた!」と言葉かけをします。  
取り外しできるよう、洗濯バサミで作りました。

### ○教材の良いところ

生徒と指導者が傘の下の同じ空間のなかで  
体験を共有できることから、コミュニケーション  
広がります。



# 「あかんべノンタン」

## 対象児童・生徒

以前小1を担任していたときに作成した。

- ・力が弱い、引くことができる。
- ・絵本の読み聞かせを注目できる児童から視覚的に配慮が必要な児童。

S 小1 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・絵本の世界を体験する。
- ・表情が変わることに注目する。
- ・自分で引っ張って表情を変える。

・ノンタン、おひさま共に舌を立体化し、視覚的に配慮が必要な児童にも“舌”をイメージしやすいようにした。

・ノンタンの笑顔の部分はマジックテープを小さくし、あっかんべーの顔につけている。そうすることで児童が弱い力でも引っ張ってはがすことができる。

・おひさまは原画を元にはっきりとした色で作成し、黒布の前に配置することで注目しやすいようにした。

## 教材の使い方 (指導方法)

・国語・算数の授業で、絵本の読み聞かせを行った後、絵本の世界の再現遊びで使用した。

・最初に絵本を読み聞かせるようにして、教員がノンタンの顔を引き、顔を引くことで表情が変化することを手本で示した。その後は児童が顔の部分をしっかりと握って引いたり、指を引っかけるようにして引いたりして表情の変化を楽しんだ。

・慣れてきたら友達と向かい合わせになり、「○○さん、○○さん、あっかんべー」という言葉かけに合わせて顔を引くことを行った。

・繰り返し活動を行った後、おひさまを出して教員が引き、おひさまに怒られ、ノンタンが怖い思いをするという絵本の世界を再現した。



# げつようびはなにを食べる？ ～歌と一緒に食べ物を見よう～

## 対象児童・生徒

- ・ 食べ物の名前を繰り返し歌うので、呈示したパネルに関心をもてる。
- ・ パネルを見たり追視したりする力をつける。

S 小1 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・ 歌を楽しみながら提示したパネルに関心をもつ。
- ・ パネルを見たり追視したりして、見る力を高める。

- ・ 曜日に出てくる食べ物を歌と一緒に覚えることができる。
- ・ 曜日に色をつけ、カレンダーと同じようにした。
- ・ 曜日のサインが意識できるように、曜日の絵パネルを作りイメージがもてるように工夫した（発展課題）。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ① 「げつようびはなにを食べる？」の歌に合わせて、曜日や食べ物のパネルを提示する。
- ② 提示したパネルの食べ物を児童に聞いたり、二択で提示したりして、食べ物の名前や好きな物を選ぶようにする。場合によっては、写真カードを提示する。

### <発展課題>

- ③ 食べ物のパネルの下に、文字パネルを貼る。
- ④ 食べ物のパネルを撤去し、曜日のイラストパネルを貼る。
- ⑤ アカペラで歌い、手遊びをとして、マカトンサインをする。

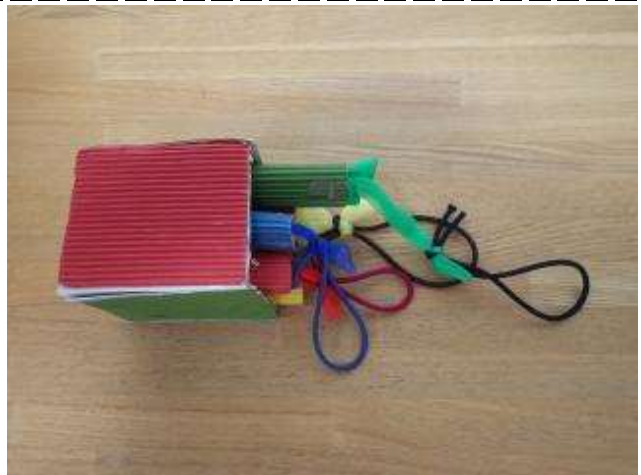
# どんないろがすき ～歌と一緒に色を意識して～

## 対象児童・生徒

- ・訪問児童で、視野があまり広く持てない児童でも、目の前で展開できる。
- ・力の弱い児童でも、簡単に引き出すことができる。
- ・うつ伏せクッションでも見ることができる。

S 小1 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・歌を楽しみながら視覚的に色を意識する。
- ・簡単に手で引き出すことができる。

- ・軽くてコンパクトで、簡単に持ち運ぶことができる。
- ・布の色と筒の色を同じにして、触覚的にも感じられるような紙を使用した。
- ・指をひっかけて引き出せるようにした。

## 教材の使い方 (指導方法)

「どんないろがすき」の歌に合わせて一つ一つの色の筒から布を引き出す  
＜手指の操作＞  
指にゴムを引っかけて手を動かすことで、布が出てくる。  
＜視覚的に＞  
次々に歌に合わせて布が出てくるのを見る。  
＜触覚的に＞  
触ると刺激のある紙を使用して、触覚にも訴えかけられるようにした。

# 線書き

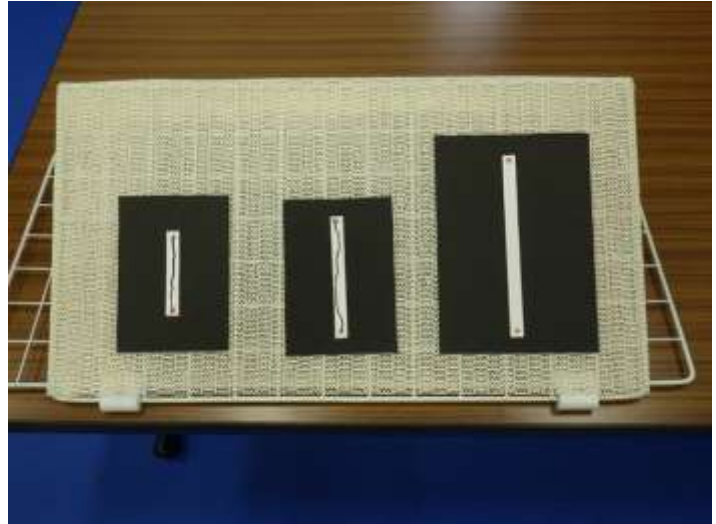
～始点、終点を目で追いながら線が書けるかな～

## 対象児童・生徒

- ・絵カードでの一対一対応ができるお子さんです。
- ・手先が器用で、細かい作業に集中して取り組むことができるお子さんです。
- ・活動的な学習を好むお子さんです。

S 小1 A②学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・始点終点を目で見て、指さして確認することができる。
- ・始点から終点まで指やキャップを付けたペンでなぞり書きをし、運筆を覚える。
- ・実際にペンで書くことによって、書くという動作に対して達成感を得る。

## その他

- ・運筆練習の際、手首が浮かないように、書見台を用いた。
- ・視覚的な情報を制限するため、黒地に白抜き教材を作成した。
- ・この教材を用いて運筆の学習を行ったことで、書く動作に意欲が見られた。
- ・教員の支えなしでなぞり書きをすることができるようになった。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・児童の前に書見台を設置する。
  - ・5 cm、7 cm、10 cm、15 cmの教材を準備し、5 cmのものから始める。
  - ・なぞり書きの教材をバインダーにはさみ、書見台の上に置く。
- ①赤色で書かれている始点、終点に注目させ、指さすよう促す。
  - ②始点から終点まで、指、キャップの付いたペン、ペンの順になぞり書きをする。
  - ③支えありのなぞり書きから取り組み、慣れてきたら支えなしでなぞり書きに取り組む。
- ・手首が安定してきたら、書見台を外す。
  - ・児童の実態に応じて、徐々に教材の長さを変えていく。
  - ・なぞり書きの教材は縦、横、半円、円の順に変えていく。
  - ・黒地白抜きのなぞり書きができるようになったら、白地白抜きのものに変えていく。

※・は教員の指導支援方法 ①②③は児童の学習内容

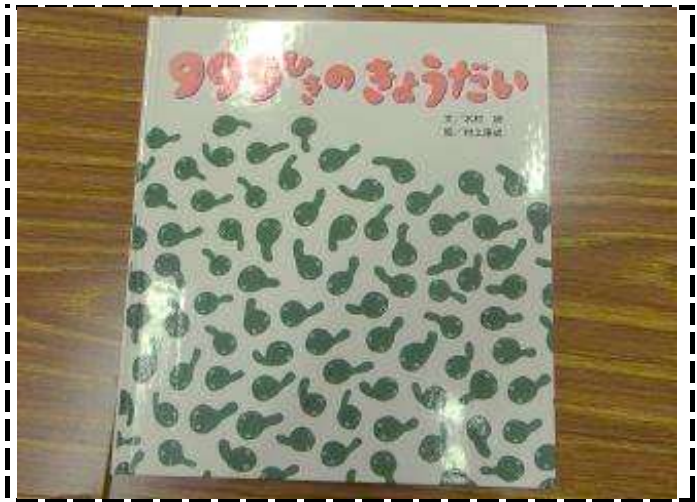
# 999ひきのきょうだい ～物語への興味関心を広げる～

## 対象児童・生徒

物語に興味があるけれど、本だと集中力にかけてしまう児童生徒に、物語の楽しさを伝えるために作りました。

S 小3 A②学習グループ

自立活動を主とする 教育課程

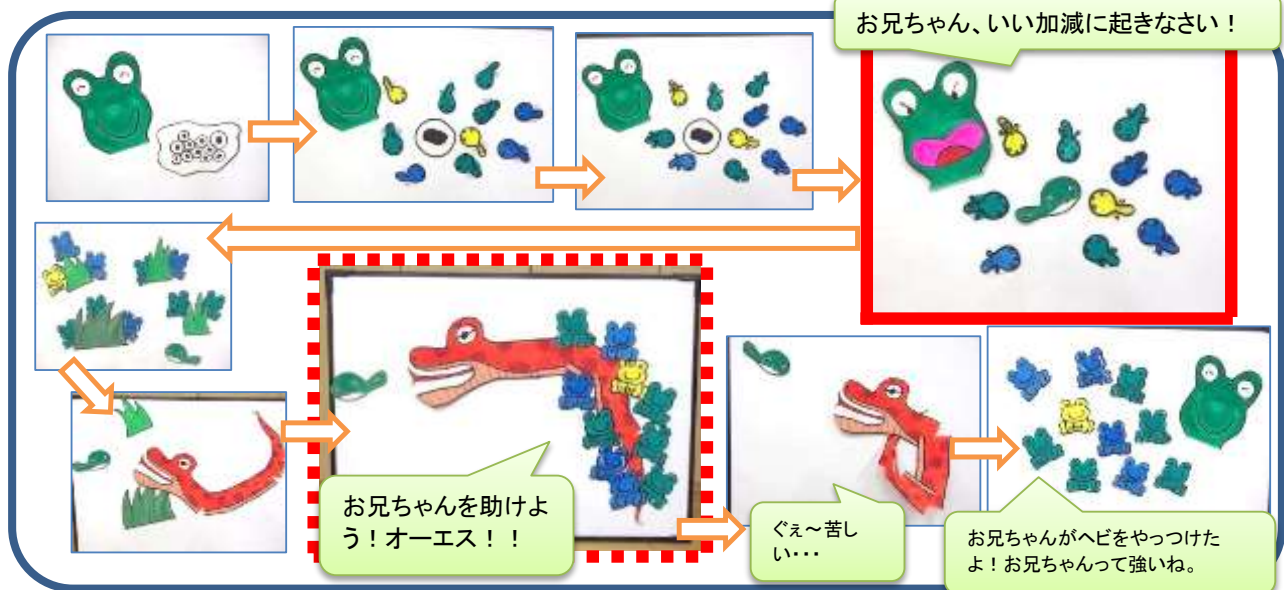


## ねらい

物語に興味を持つ。  
物語の世界観を感じながら、自らパネルを操作してみる。

絵本の内容を少し簡略化し、インパクトのある場面をパネルで表現しました。また、おたまじゃくしとカエルのパネルは一緒に作成するところから始め、物語に親近感を持てるようにしました。子供たちの好きな場面は、お母さんカエルが、お寝坊なお兄ちゃんカエルに一喝入れる場面と、お兄ちゃんカエルとヘビから守るために、おとうとカエルたちがヘビを引っ張る場面です。この後、お面を作成し、劇遊びに結びつけました。

## 教材の使い方 (指導方法)



# アンパンマン絵合わせ

## 対象児童・生徒

- ・絵カードや写真カードでの一対一対応ができるお子さんです。
- ・好きな絵本や教材、身の回りの物など、いつも見ている特定の物では「しょうぼうしゃ」「ぞう」「バス」「くつ」など言葉で、指さしたり、取りに行けたりするものがあります。

S 小4 自立活動を主とする課程



## ねらい

- ・絵カードを見て、絵の構成に気づく。
- ・複数の絵を見て、あてはまるものを選べる。
- ・手指の操作性も高めたい。

## その他

- ・カードに厚みを持たせて扱いやすいようにした。
- ・見比べやすいように、見本を作った。
- ・ボードに四角い枠を作ったが、カードを滑らせて貼る児童もいるので、段差はつけなかった。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・個別の学習で取り組む。
- ・児童によっては、書見台にボードをセットして行う。

①マグネットボードと、アンパンマンのキャラクター4種の見本を提示する。

②マグネットボードの四角の中に、キャラクターの絵カードの一部（上半身、または下半身）を貼り、複数のカードの中から、対になるものを選んでキャラクターの全身が完成するように、所定の位置に貼らせる。児童によって、見本を折ってそのキャラクターだけ見せる、全部見せる、一度見せて隠す、など対応を変える。また、手指の動きの制約に応じて、貼る活動を介助する。



# いろいろな色を知ろう！ ～創作活動の導入～

## 対象児童・生徒

- ・絵本やパネルシアターなどを楽しめる生徒
- ・注視や追視が課題の生徒

S 中1 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



## ねらい

- ・パネルシアターに興味を示し、見たり聞いたりする力を高める。
- ・身近なものの名前（色）に親しむ。
- ・簡単なマッチングの課題に挑戦する。

## その他

- ・色パネルはできるだけ大きいサイズにカットし、ビビットな色を使用することで刺激が入りやすいように工夫しました。

→教員が色パネルを持って動かすと、それを目で追ったり、手を伸ばして触ろうとしたり、自ら教材に関わる場面が見られるようになってきました。

## 教材の使い方 (指導方法)

- 美術の授業で色を扱う単元の導入で毎回使用します。
- 「どんな色が好き？」の歌に合わせてパネルシアターで色パネルを提示していきます。
  - ・歌はアカペラでうたい、生徒の様子をみながら声の強弱、うたうスピード、間の取り方を調整します。
  - ・色パネルは歌に合わせて各生徒の目の前まで持っていき、注目を促します。
- その日の授業で使用する教材と色パネルを見比べて「これとこれは同じ」の言葉かけと簡単なマッチングを行い、色の名前に親しみながら活動を進めていきます。

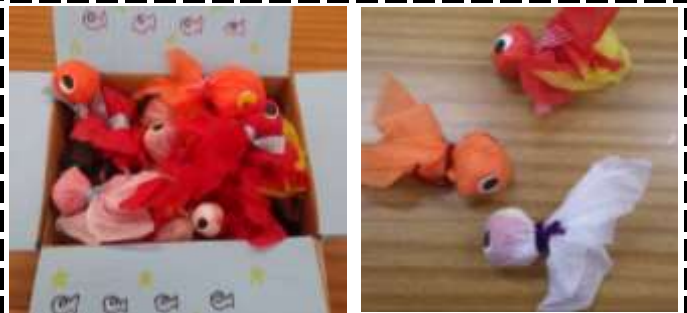
# きんぎょすくいをしよう ～なつまつり～

## 対象児童・生徒

発話のある生徒、教員の言葉掛けに対して答えようと発声する生徒、表情で気持ちをつたえようとする生徒です。日々、腕、手指の操作性を意識した課題を学習中です。

S 中3 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



生徒とたくさん金魚をつくりました

## ねらい

自分の力を使って金魚をつくり、金魚すくい（すくう・いれる）を行い、夏祭りを体験する。

金魚は、赤・黄色・白・黒のおはながみを使用しました。2、3枚のおはながみを生徒と一緒に丸め、生徒が選択した色のおはながみで包みます。生徒の実態に応じて、リボンやモールを使って留めます。目は、画用紙や、丸型のシールを使って作成しました。事前に粘土で丸める学習をしていたので、その時の体の使い方を振り返りながら、みんなで作成することができました。ご家庭からも「かわいい」と、喜んでいただきました。

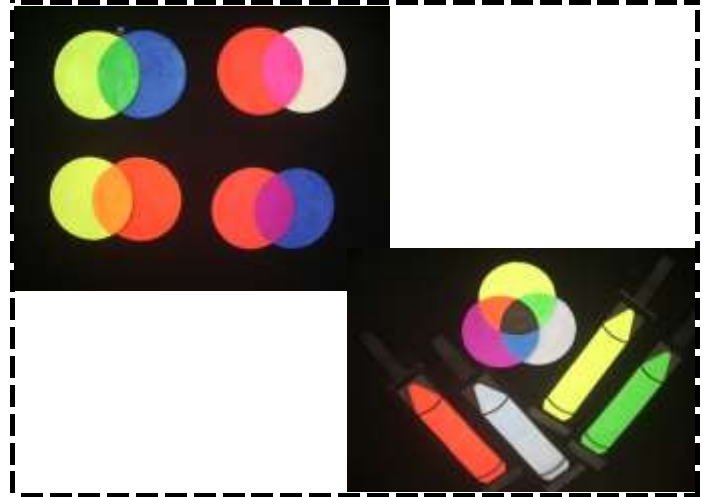
## 教材の使い方 (指導方法)

- ①生徒の実態に応じて、金魚を載せるボードの大きさ、高さを変化させて提示する。
- ②生徒一人一人に適した道具を手渡し、金魚をすくう。（今回は、ひしゃくや手桶にグリップを付けたもの、熊手、網の付いた棒等を使用）
- ③すくった金魚を入れ物に入れる。
- ④金魚を袋に入れ、持ち帰る。

# 混色 どんないろがすき ～パネルシアター～

## 対象児童・生徒

全生徒、どなたでも。  
(視覚障害のある方には、この教材の仕組みを触っていただく)



## ねらい

美術の混色の導入で利用し、色の混ぜ合わせについて興味をもたせる。「見る、聴く」に役立てる。

パネルシアターの材料に、蛍光塗料を塗り、2色を混ぜたら何色になるかを視覚的にわかりやすくした。「どんな色が好き」の歌に合わせて、表現するので、生徒は、楽しみながら見ることができる。催し物の会でも楽しめる。

## 教材の使い方 (指導方法)

美術の授業や歌リズムの授業、また地域の催し物の会で使用する。「どんな色が好き」の歌に合わせて、2色の円盤を混ぜ合わせる演技をして、色を変化させていく。



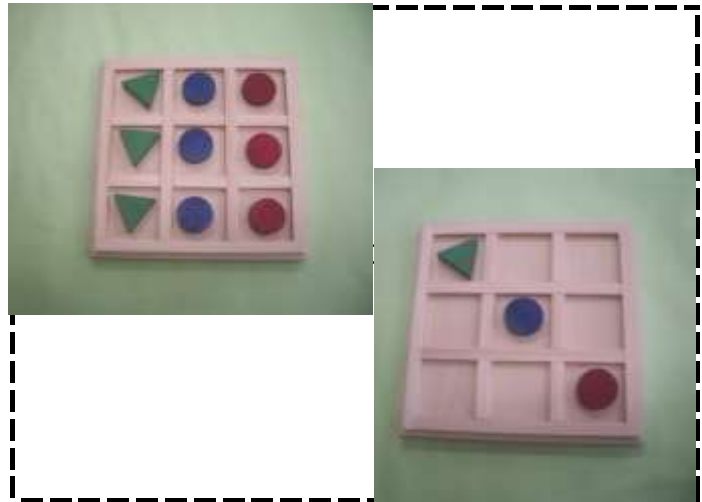
# 同じ場所に置けるかな？

## 対象児童・生徒

- ・パズルで遊ぶことが好きな生徒
- ・教材に触ることが好きな生徒
- ・色や形の弁別ができる生徒

S 中3 B学習グループ

知的障害を併せ有する生徒の教育課程



## ねらい

見本をよく見て、真似ができるようになる！

- ・オセロや囲碁などを使用することも考えましたが、それだとマス目が多すぎて、生徒が飽きてしまうことが考えられた。そのため、最初は少ないマス目からスタートして、学習しようと思いました。
- ・生徒が握りやすい大きさピースを用意して、区別しやすいように色も付けました。
- ・ボードは少し厚みがほしかったので、2枚の板をボンドで重ねました。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・まず最初に「青い○」や「緑の△」など、色や形を生徒と一緒に確認します。
- ・次に、教師側が「右の列の上の段に青い○」や「真ん中の列の下段に緑の△」などと言いながら、ピースを置いていきます。
- ・置き終わったら生徒にボードとピースを渡し、「同じ場所に置けるかな？」と活動を促します。
- ・できたら1つずつ確認していきます。
- ・慣れてきたらピースの数を増やしたり、時間を計ったりして取り組みます。

